Kodak

ScanMate
i920 スキャナー

TWAIN アプリケーション用
スキャンセットアップガイド

A-61733_ja

TWAIN データソースのスキャン セットアップガイド

[Scan Validation Tool] の起動 2
[Scan Validation Tool] ダイアログボックス 3
TWAIN データソースの使用 4
開始方法 5
　イメージ設定の選択 6
　デバイス設定の選択 8
スキャナーメインウィンドウ 9
イメージ設定ウィンドウ 11
　プレビューウィンドウ 12
　[一般] タブ 14
　[サイズ] タブ 16
　[調整] タブ：白黒 19
　[調整] タブ：カラー／グレースケール 21
　[拡張機能] タブ 23
詳細イメージセットアップ 25
　[詳細] タブ 25
書類の各面に対する複数イメージの作成 28
書類の各面に対する複数設定の作成 30
新しい設定のショートカットの作成 31
イメージ設定の変更 33
デバイス設定ウィンドウ 34
　デバイス - [一般] タブ 35
　デバイス - [重送検知] タブ 37
デバイス設定の変更 39
[診断] ウィンドウ 40
　診断 - [一般] タブ 40
　診断 - [デバッグ] タブ 41
　診断 - [ログ] タブ 42

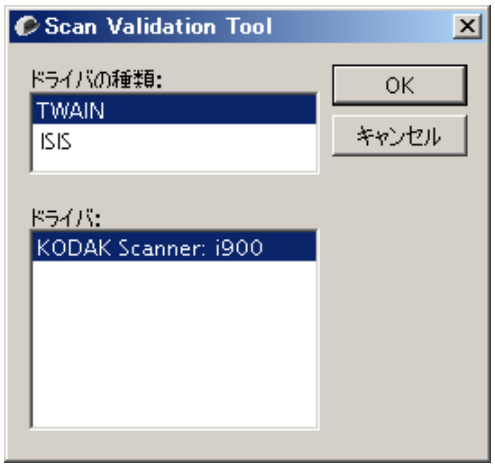
コダック ScanMate i920 スキャナーのイメージ処理機能によって高画質のスキャン画像が取得できます。

*イメージ処理*とはそれぞれのイメージに対して給紙の傾き調整や不要な枠消し、イメージのノイズ除去などスキャン画像の質を自動的に向上させる機能のことです。

本ガイドでは TWAIN データソースの使用手順やスキャナーの機能について説明します。各機能は、ご使用のスキャンアプリケーションのユーザインターフェイスでも選択できます。

[Scan Validation Tool] の起動

1. **[スタート]>[プログラム]>[Kodak]>[Document Imaging]>[Scan Validation Tool]** を選択します。



2. [ドライバの種類] から **[TWAIN]** を選択し、[ドライバ] から ***[Kodak Scanner i900]*** を選択します。[Scan Validation Tool] ダイアログボックスが表示されます。

[Scan Validation Tool] ダイアログボックス

Scan Validation Tool はコダックが提供する診断アプリケーションです。SVT のユーザインタフェースを使用すると、スキャナーのすべての機能にアクセスできるので、スキャナーが正常に動作しているかどうか効率的にチェックできます。Scan Validation Tool では、TWAIN データソースや ISIS ドライバを使用してスキャナー機能を検証できます。

[ツールバー] ボタン

セットアップ — 選択されたドライバ用のユーザインタフェースを表示します。

保存先 — スキャンしたイメージを保存するディレクトリとファイル名を選択します。このオプションは、**[イメージをファイルに保存]** を選択した場合に利用できます。

スキャン開始 — 入力トレイにある原稿をスキャンします。

1 ページスキャン — 1 ページだけスキャンします。

停止 — スキャンを終了します。

ライセンスキー — [ライセンスキー] ウィンドウを表示します。

表示モード（画像なし） — イメージビューアウィンドウを閉じます（イメージは表示されません）。

表示モード（1 画像） — 1 回に 1 枚のイメージを表示します。

表示モード（2 画像） — 1 回に 2 枚のイメージを表示します。

表示モード（4 画像） — 1 回に 4 枚のイメージを表示します。

表示モード（8 画像） — 1 回に 8 枚のイメージを表示します。

イメージをファイルに保存 — 選択すると、指定したディレクトリにイメージが保存されます。

指定数ごとに表示 — スキャン中に表示するイメージのサンプリングレートを入力します。たとえば、すべてのイメージを表示する場合は「1」を入力します。イメージを 10 個おきに表示する場合は「10」を入力します。

[合計] — 現在の [Scan Validation Tool] セッションでスキャンされた画像の総数を表示します。

- TWAIN データソース（または ISIS ドライバ）にアクセスするには、[Scan Validation Tool] ダイアログボックスの**セットアップ** アイコンをダブルクリックします。

[最後のファイル] — 最後に保存した画像のフルパスとファイル名を表示します。

TWAIN データソースの使用

コダック ScanMate i920 スキャナーは、ご使用のスキャンアプリケーションと連携動作する TWAIN データソースを使用することで様々なイメージを提供できます。TWAIN データソースは、スキャンアプリケーションにスキャナーをリンクさせるスキャンシステムの一部です。

TWAIN データソースを使用すると、スキャナーメインウィンドウに設定のショートカットが一覧表示されます。それぞれの [設定のショートカット] は特定のイメージとデバイス設定のグループです。[設定のショートカット] には、さまざまな原稿に対応する、一連の出力設定が定義されています。いずれの [設定のショートカット] も希望に満たない場合は、カスタマイズした設定のショートカットを作成できます。たとえば請求書をスキャンする場合は、「請求書」という名前の設定ショートカットを作成し、[設定のショートカット] を選択するだけでスキャンできます。

ISIS ドライバを使用している場合は、*「ISIS ドライバのスキャン セットアップガイド」* で詳細を参照してください。

開始方法

最終的な目的は、できるだけ簡単にスキャンすることです。*スキャナーメインウィンドウ*から [設定のショートカット] を選択し、**[OK]** ／ **[スキャン]** を選択するだけで実行できます。

このスキャナーでは既にいくつかの [設定のショートカット] が定義されています。ほとんどの場合、これらのショートカットで必要なすべての作業を実行できます。別の設定が必要な場合は、独自のショートカットを作成する必要があります。作成したショートカットは [設定のショートカット] のリストに追加され、以降のスキャンに使用できます。

オプションの大半は、以下の 2 つのウィンドウにあります。

- **イメージ 設定**：スキャナーメインウィンドウの [設定] ボタンをクリックすると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。このウィンドウの [一般]、[サイズ]、[調整]、[拡張機能] タブを使って、イメージ処理パラメータを設定することができます。また、**[デバイス]** ボタンをクリックしてデバイス設定を行ったり、**[詳細イメージセットアップ]** アイコンをクリックして詳細設定ができます。
- **デバイス**設定：[デバイス] ボタンは、イメージ設定ウィンドウにあります。**[デバイス]** を選択すると、[一般] タブや [重送検知] タブが表示されます。デバイス設定ウィンドウでは、[診断] にアクセスすることもできます。

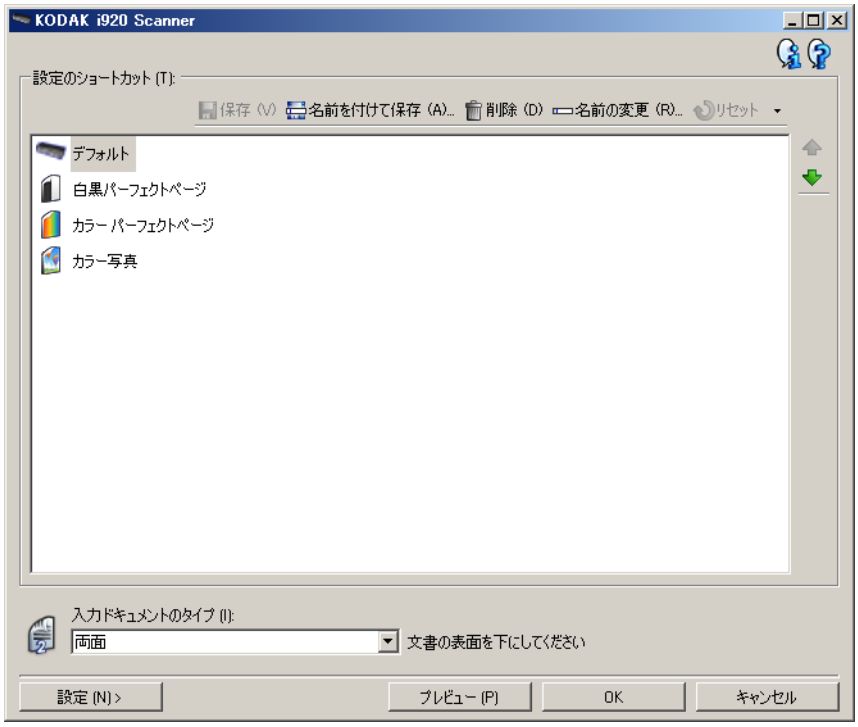
以降の手順は、ショートカットの設定方法について説明しています。スキャナーメインウィンドウの各機能とオプションの詳細な説明は、「スキャナーメインウィンドウ」を参照してください。

注：設定のショートカットの設定が、スキャンアプリケーションの設定に優先することがあります。このような場合、スキャナーメインウィンドウのショートカット名の隣に、< *変更済み* > という文字が表示されます。設定のショートカットを使用せず、まず個人設定をスキャナーにダウンロードしてから、TWAIN データソースにアクセスするアプリケーションで、このような状況が発生します。

[OK] をクリックしてスキャンを開始すると、設定の変更を保存するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。設定のショートカットを利用しないアプリケーションを使用する場合は、この問い合わせに対して **[いいえ]** を選択してスキャン処理を続行してください。

イメージ設定の選択

スキャナーメインウィンドウから、以下の作業を行います。

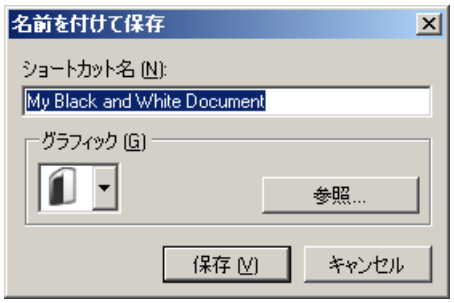


1. [設定のショートカット] リストから、あらかじめ定義されている設定のショートカットを選択します。目的のイメージ出力にもっとも近い内容の設定のショートカットを選択してください。
2. *[入力ドキュメントのタイプ]* ドロップダウンリストから、原稿の表面のイメージを作成するのか、裏面のイメージを作成するのか、または両面のイメージを作成するかを選択します。次のオプションを選択できます。
   - **両面** — 書類の両面をスキャンします
   - **片面 - 表** — 表面だけをスキャンします
   - **片面 - 裏** — 裏面だけをスキャンします
3. 1、2 枚の原稿をスキャナーの入力トレイにセットします。
4. 選択したイメージ処理オプションによってどのように画像が変化するかを確認するには、**[プレビュー]** をクリックしてイメージを参照し、必要に応じて設定内容を調整します。

   注：この機能は、選択したイメージ処理オプションを対話的に調整した場合に使用します。

   対話的に調整を行う場合は、最高品質のプレビューでイメージを表示することを推奨します。

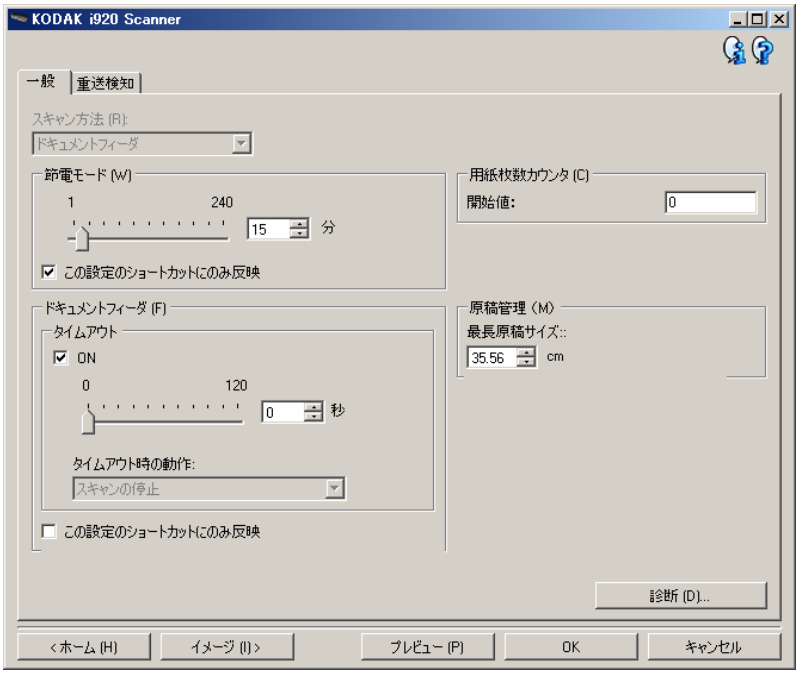
5. イメージ処理オプションの設定が完了したら、必要に応じて原稿をセットして、**[OK ／スキャン]** をクリックします。
   - 期待通りのイメージが表示されたら、設定内容は適切です。**[設定]** ボタンをクリックして、[一般]、[サイズ]、[調整]、[拡張機能] タブの設定を変更する必要はありません。
   - 表示されたイメージの品質に満足できない場合は、別のショートカットを利用して設定を変更するか、プレビューをしながら [一般]、[サイズ]、[調整]、[拡張機能] タブのオプションを変更して、現在の設定内容をさらに調整してください。設定を変更後、手順 3 ～ 5 を繰り返し、期待通りの結果が得られるまで調整してください。
6. デフォルトの設定のショートカットを変更したら、スキャナーメインウィンドウの **[名前を付けて保存]** をクリックします。[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。



7. 判別しやすい設定のショートカット名を入力して、**[保存]** をクリックします。新しい設定のショートカットが作成、保存されました。以降、このショートカットを使ってスキャンが可能になります。

デバイス設定の選択

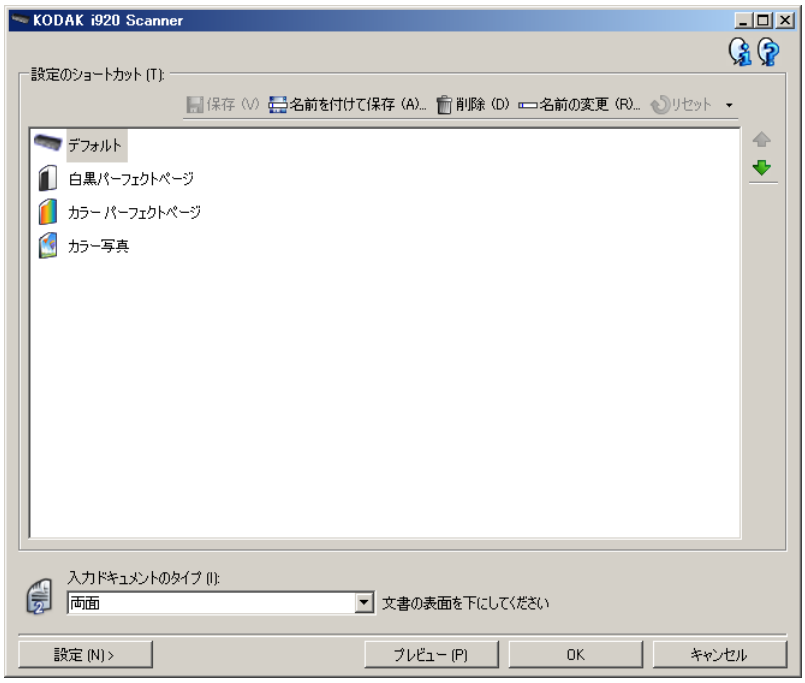
1. 作成した設定のショートカットを選択します。
2. **[設定]** を選択して、イメージ設定ウィンドウを表示します。
3. **[デバイス]** を選択します。デバイス設定ウィンドウが表示されます。



4. 設定内容を変更する前に、デバイス設定ウィンドウの各タブをクリックして、どのようなオプションや機能があるかを確認します。各機能の詳細は、「デバイス設定ウィンドウ」を参照してください。
5. スキャン時に使用する機能に応じて適切なタブを選択します。
6. 各のタブで、スキャナーに実行させる適切なオプションや機能を選択します。
7. 完了したら、以下のいずれかの作業を行います。
   - **[ホーム]** をクリックしてスキャナーメインウィンドウに戻り、[保存] をクリックして選択内容を保存します。
   - **[イメージ]** をクリックしてイメージ設定ウィンドウに戻り、必要に応じて設定内容をさらに調整します。

スキャナーメインウィンドウ

スキャナーメインウィンドウはスキャナーのユーザインタフェースのホームウィンドウです。[設定のショートカット]、**[OK]** ／ **[スキャン]** の順に選択するだけでスキャンできます。



[設定のショートカット] — 現在定義されている設定のショートカットが一覧表示されます。次のショートカットが用意されています。

- **デフォルト** — スキャナーのデフォルト設定
- **白黒パーフェクトページ**
- **カラー パーフェクトページ**
- **カラー写真**

注：

- 既存の [設定のショートカット] は削除できますが、デフォルトのプロファイルを削除しないことを強く推奨します。
- [設定のショートカット] を変更してその変更を保存していない場合、[設定のショートカット] に < *変更済み* > というテキストが付き、名前が斜体で表示されます（例：* *デフォルト* < *変更済み* >）。

入力ドキュメントのタイプ — ドキュメントのどちらの面のイメージの情報を出力するかを選択できます。

- **両面**：原稿の両面をスキャンします。
- **片面 - 表**：原稿の表面をスキャンします。
- **片面 - 裏**：原稿の裏面をスキャンします。

注：スキャンする原稿は表面を伏せて入力トレイにセットしてください。

保存 — 選択した [設定のショートカット] に対して行った変更を保存します。これはユーザが作成したショートカットに対してのみ使用できます。

名前を付けて保存 — [名前を付けて保存] ウィンドウが表示され、現在の設定を新しい [設定のショートカット] として保存します。

削除 — 選択した [設定のショートカット] を削除します。この場合、確認を求めるメッセージが表示されます。これはユーザが作成したショートカットに対してのみ使用できます。

名前の変更 — [設定のショートカット] の名前を変更できる [名前の変更] ウィンドウを表示します。これはユーザが作成したショートカットに対してのみ使用できます。

リセット — 選択した [設定のショートカット] への変更を元に戻します。これはユーザーが変更したショートカットに対してのみ使用できます（例 : < *変更済み* > というテキスト付きの斜体のショートカット）。

上に移動 — 選択した設定のショートカットを、リスト中の 1 つ上の場所に移動します。再度移動しない限り、移動先の場所にそのショートカットが表示されます。

下に移動 — 選択した設定のショートカットを、リスト中の 1 つ下の場所に移動します。再度移動しない限り、移動先の場所にそのショートカットが表示されます。

設定 — [イメージ設定] ウィンドウで、選択した [設定のショートカット] を変更することができます。このウィンドウから、デバイス設定および診断ウィンドウにもアクセスできます。

プレビュー — スキャンを開始して、イメージ設定ウィンドウのプレビュー領域にスキャンされたイメージが表示されます。表示されたイメージは、現在のショートカット設定に基づいたサンプルです。

OK ／スキャン — 選択すると、保存されていない変更を保存するようメッセージが表示されます。

注：このボタンが **[OK]** の場合、保存されていない変更は現在のスキャンセッションの影響を受けます。

キャンセル — 変更内容を保存せずに、スキャナーメインウィンドウを閉じます。

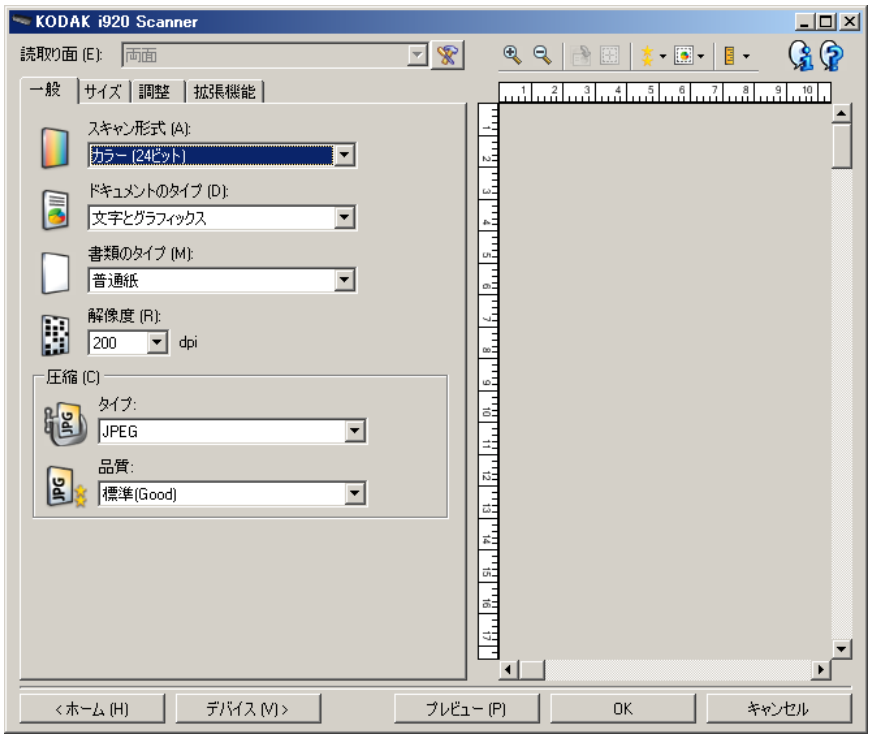
情報アイコン

バージョン情報：スキャナーのバージョンと著作権情報を表示します。

ヘルプ：現在表示されているウィンドウのヘルプ情報を表示します。

イメージ設定ウィンドウ

このウィンドウから、利用可能なタブを使用してイメージ処理オプションを定義できます。イメージ設定に使用される値は、選択された設定のショートカットに保存されます。イメージ設定ウィンドウには [一般]、[サイズ]、[調整]、[拡張機能] の 4 つのタブがあります。



読み取り面 — 設定する読み取り面とイメージを選択できます（例：表面、裏面、両面：カラー（24 ビット）など）。すべてのイメージ設定は、選択されたイメージに適用されます。

注：*[読取り面]* オプションは、詳細設定が [詳細] タブで選択された場合のみ利用できます。

詳細イメージセットアップ：[詳細] タブを表示します。

[ツールバー] ボタン

	ズームイン：プレビューウィンドウに現在表示されているイメージを拡大します。
	ズームアウト：プレビューウィンドウに現在表示されているイメージを縮小します。
	アウトラインを回転：アウトラインを 90 度回転します。 注：このオプションは、回転されたアウトラインがスキャナーの最大幅までに適合する場合のみ使用できます。
	アウトラインを中央に配置：アウトラインがスキャナーの最大幅の中央に配置されるように、アウトラインの X 原点を調整します。
	プレビューの品質：スキャン画像の表示品質を選択します。 • **通常**：イメージを低解像度で表示します。 • **高**：実際のイメージにもっとも近い品質で表示します。このオプションを選択した場合、[プレビュー] ウィンドウに表示されるイメージは、最終的に出力されるイメージに近いものになります。
	自動プレビュー更新：表示されるイメージの更新方法を選択できます。 • **オン**：自動的に設定変更の結果を反映して表示されます。ほとんどの場合、原稿を再スキャンする必要はありません。再スキャンが必要な場合は、原稿を再スキャンするようメッセージが表示されます。 • **オフ**：再度プレビュースキャンを実行するまで表示されるイメージは更新されません。
	単位：スキャナーの測定値の単位を選択します。これには、プレビューウィンドウとサイズ関連オプションが含まれます。[単位] オプションは、**[インチ]**、**[センチメートル]**、**[ピクセル]** が使用できます。

プレビューウィンドウ

プレビュー領域ウィンドウに表示されるイメージは、現在のショートカット設定に基づくサンプルです。プレビュースキャンの実行後に、このウィンドウにイメージが表示されます。

- **アウトライン**：**[原稿 : マニュアル指定]** または **[イメージ : [ドキュメントの一部]** を [サイズ] タブから選択しても、現在の [アウトライン] 選択項目が表示されます。アウトラインがプレビューイメージと位置が合っていない場合は、マウスを使用してアウトラインのサイズと位置を調整できます。マウスのカーソルをアウトラインの回りで動かすとカーソルが変化し、マウスの左ボタンを押し続けるとアウトラインを変更できます。
  - **移動**：カーソルをアウトライン内に置くと、アウトラインの位置を調整できます。
  - **角**：グラフィックの四隅の 1 つにカーソルを置くと、2 つの辺を同時に調整できます。
  - **辺**：グラフィックの四辺の 1 つにカーソルを置くと、その辺を調整できます。
  - **回転**：回転のグラフィックの上にマウスカーソルを置くと、アウトラインの角度を調整できます。

ホーム — スキャナーメインウィンドウに戻ります。

デバイス — [デバイス設定] ウィンドウを表示します。

プレビュ — スキャンを開始して、プレビューウィンドウにイメージを表示します。表示されたイメージは、現在のショートカット設定に基づいたサンプルです。

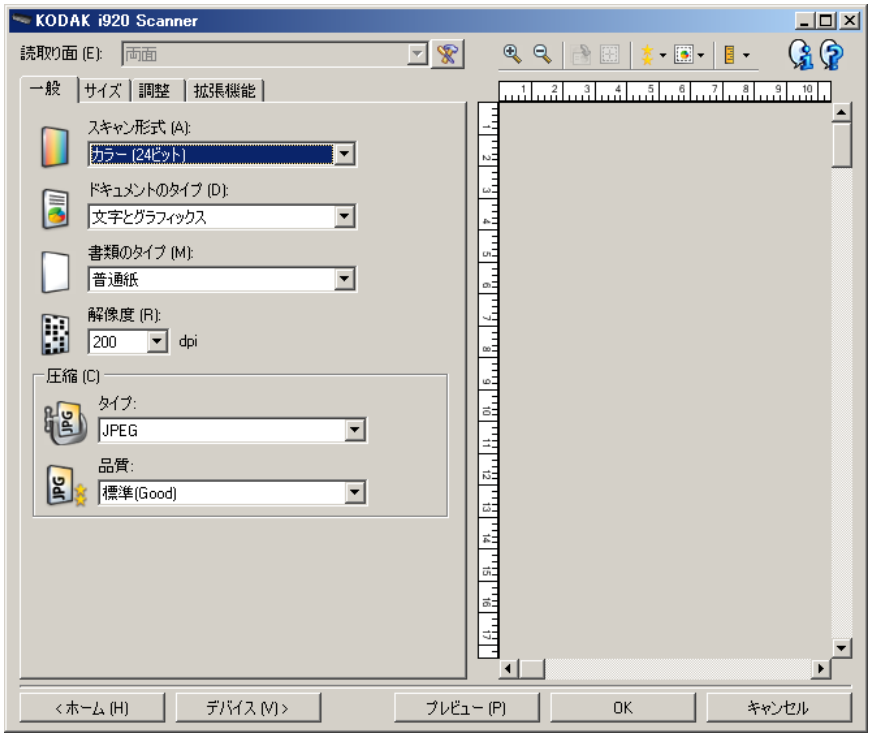
OK ／スキャン — 選択すると、保存されていない変更を保存するようメッセージが表示されます。

注：このボタンが **[OK]** の場合、保存されていない変更は現在のスキャンセッションの影響を受けます。

キャンセル — 変更内容を保存せずに、スキャナーメインウィンドウを閉じます。

[一般] タブ

[一般] タブには一般的に使用されるイメージオプションが用意されています。ほとんどの場合、他のタブのオプションを変更する必要はありません。



スキャン形式 — イメージのフォーマットを選択できます。

- **カラー（24 bit）**：カラーイメージを生成します。
- **グレースケール（8 ビット）**：グレースケールイメージを生成します。
- **白黒（1 ビット）**：白黒イメージを生成します。

注：*[スキャン形式]* オプションは、**[読取り面あたりのイメージ数 : 1]** が [詳細] タブで選択されている場合にのみ使用できます。

ドキュメントのタイプ — 原稿の内容のタイプを選択します。

- **文字とグラフィックス**：文書、グラフィック（棒グラフ、円グラフなど）、線画などが混在している原稿の場合に選択します。
- **文字**：文字原稿の場合に選択します。
- **写真**：写真が主体の場合に選択します。

書類のタイプ — スキャンする用紙の素材や重量に基づいてタイプを選択します。オプションは、**普通紙、薄紙、光沢紙、カードストック、雑誌**です。

解像度 — 解像度 (dpi) を選択します。ここで指定した値にによってイメージ品質が決まります。解像度を高くすると、スキャン時間やイメージサイズに影響します。解像度は 100、150、200、240、250、300、400、600、1200 dpi に設定できます。

圧縮 — イメージのサイズを縮小できます。

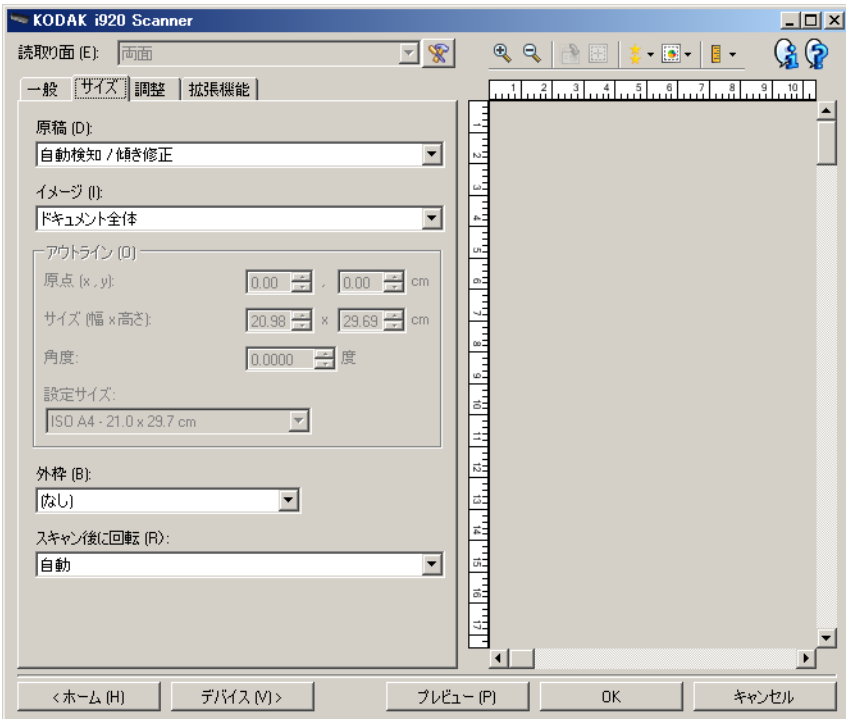
- **タイプ**：圧縮の種類を選択します。
  - **（なし）**：圧縮しません。サイズの大きなイメージが生成されます。
  - **グループ -4**：白黒イメージを圧縮する CCITT 標準を使用します。通常は TIFF ファイルで利用します。
  - **JPEG**：JPEG 技術を使って、カラー／グレースケールイメージを圧縮します。

    注：[グループ -4] オプションは**白黒（1 ビット）**で選択でき、[JPEG] オプションは、カラー、またはグレースケールで選択できます。

- **品質** — JPEG 圧縮を選択した場合に、いずれかの品質オプションを選択します。
  - **ドラフト**：圧縮率を最大にして最小サイズのイメージを生成します。
  - **標準**：標準的な圧縮率ですが、満足いく品質のイメージが生成されます。
  - **高**：一部圧縮され、良い品質のイメージが生成されます。
  - **最高**：小さい圧縮率で非常に良い品質のイメージが生成されます。
  - **高品質**：最小の圧縮率で最大サイズのイメージが生成されます。

[サイズ] タブ

[サイズ] タブでは、イメージの出力に関する値を定義できます（クロッピング値、用紙サイズなど）。



原稿 — スキャナーから搬送中の原稿を検知する方法を選択します。

- **自動検知 / 傾き修正**：各原稿を（サイズに関係なく）自動的に検知し、斜めに搬送された原稿の傾きを補整します。
- **自動検知**：各原稿を（サイズに関係なく）自動的に検知します。原稿が斜めに搬送されても、補正されません。
- **マニュアル指定**：[アウトライン] オプションで指定する領域に基づきイメージが返されます。同一サイズの原稿を含むスキャンジョブに対してのみこのオプションを使用してください。

イメージ — ドキュメントのどの部分をイメージの作成に使用するかを選択します。

- **ドキュメント全体**：**[原稿：自動検知／傾き修正]**、**[原稿：自動検知]**、または **[原稿:マニュアル指定]** を選択すると原稿の全体を捕捉します。
- **ドキュメントの一部**：**[原稿：自動検知／傾き修正]** を選択すると、*[アウトライン]* オプションで指定する原稿の一部を捕捉します。

アウトライン — イメージの作成に使用する位置とサイズを選択します。プレビューウィンドウにアウトラインが表示されます。

- **原点 (x , y)**：
  - **[原稿**：**自動検知／傾き修正]** を選択すると 、(x) は原稿の左端からの距離、(y) は原稿の上端からの距離になります。
  - **[原稿**：**マニュアル指定]** を選択すると、(x) はスキャナーの搬送路の左端からの距離、(y) はスキャナーで検知された原稿の先端からの距離になります。
- **サイズ（幅 x 高さ）: [原稿**：**自動検知／傾き修正]** または **[原稿**：**マニュアル指定]** を選択すると、これがイメージの幅と高さになります。

注：アウトラインがスキャンされた原稿の長さを超える場合、イメージは指定された長さよりも短くなる場合があります。

- **角度**：アウトラインの角度を選択できます。
- **設定サイズ**：一般的に使用される用紙サイズのリストが表示されます。このリストから項目を選択すると、自動的にアウトラインのサイズがその用紙のサイズに設定されます。アウトラインサイズがいずれのサイズとも一致しない場合、**[カスタム]** が表示されます。

注：マウスを使用してプレビューウィンドウに表示されるアウトラインを調整することもできます。

外枠 — イメージ端の処理を選択できます。

- **（なし）**
- **追加**：イメージの 4 辺に約 0.1 インチまでの黒枠が含まれます。

  注： このオプションは **[ドキュメント**: **[自動サイズ検知／傾き補正]** および **[イメージ**：**文書の一部]** の選択時は利用できません。

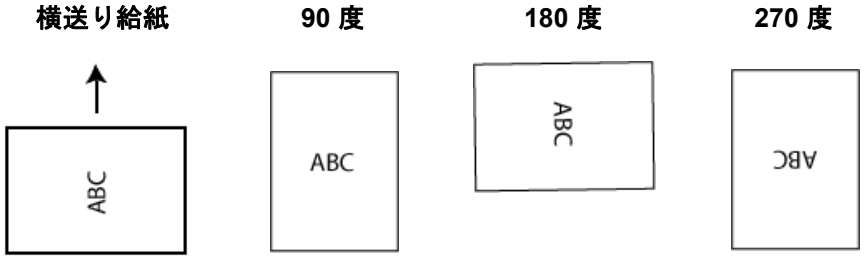
- **削除**：外枠を削除して、原稿内側のイメージを生成します。外枠はドキュメントの端のばらつきによって発生します。たとえば、原稿が完全な四角形でない場合、または斜めに搬送された場合などです。

  注：
  - このオプションで外枠の大部分が削除できなかった場合、若干の文書情報が失われる可能性があります。
  - このオプションは **[原稿**：**自動検知／傾き補正]** および **[イメージ**：**ドキュメント全体]** がどちらも選択されている場合のみ利用できます。

スキャン後に回転オプション — スキャン後にイメージに適用される角度を選択できます。

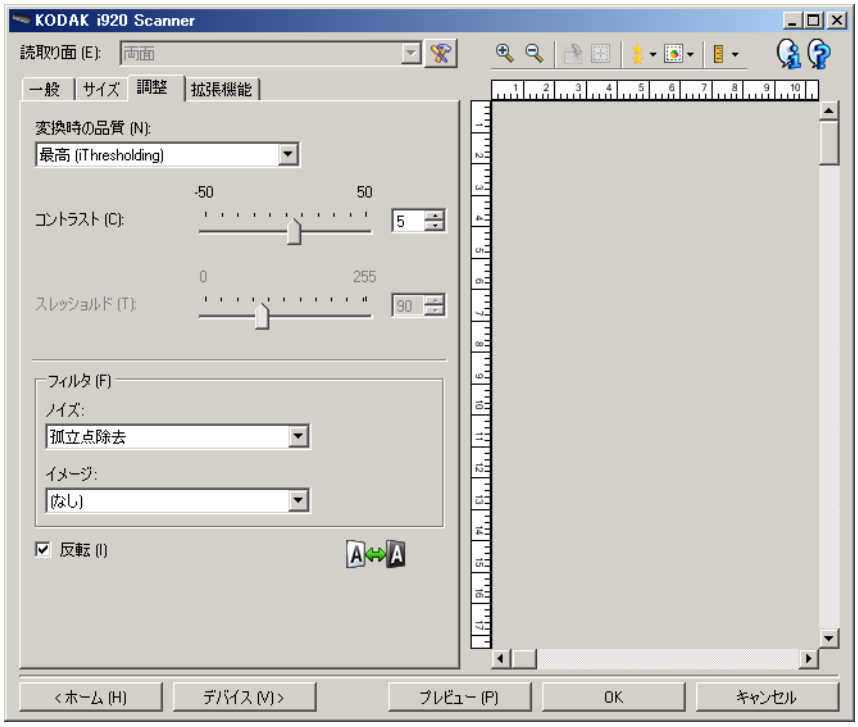
- **（なし）**
- **自動** — スキャナーが各原稿の文字方向を分析して、イメージを適正な方向に回転します。
- **90、180、270 度** — 回転する角度を指定します。

以下の例は、これらの設定が横方向にスキャンされた原稿にどのように影響するかを表します。



[調整] タブ：白黒

[調整] タブで利用できるオプションは、[一般] タブの *[スキャン形式]* の選択項目により異なります。以下のオプションは、*[スキャン方法]* で **[白黒 (1 bit)]** を選択した場合に基づきます。



変換時の品質 — これらの設定は、白黒イメージを生成するために使用する、グレースケール原稿の解析方法に影響します。

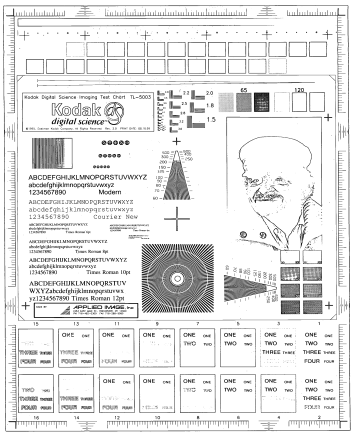
- **最高 (iThresholding)**：原稿ごとに解析して、最高品質のイメージを生成します。単一の設定で画質が異なる書類（文字のかすれ、暗い背景、カラーの背景など）をスキャンすることができます。
- **通常 (ATP)**：目的の画質を生成するための最適な設定を選択できます。このオプションは単一の設定で原稿をスキャンする際に最適です。また、[最高] 選択時に目標とする画質の *[コントラスト]* 設定が見つからない場合など、異なる設定の書類をスキャンする場合にもこの設定を使用できます。
- **ドラフト（固定）**：ピクセルが白か黒かを判断するために使用するグレースケールのしきい値を選択します。このオプションは、コントラストの高い書類に最適です。

コントラスト — イメージをより鮮明にまたはソフトにします。この設定値を小さくすると、イメージがやわらかくなり、イメージ中のノイズが除去されます。この設定値を大きくすると、イメージがより鮮明になり、薄いイメージがわかりやすくなります。オプションの範囲は、**[-50]** から **[50]** です。デフォルト値は 0 です。

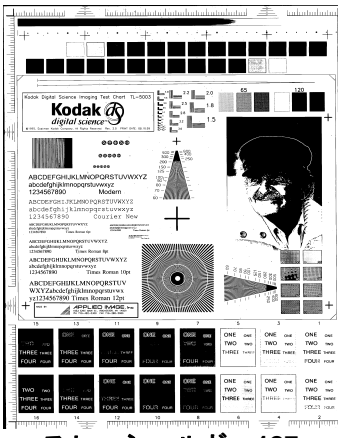
注：*[変換時の品質 : 最高]* および *[変換時の品質 : 通常]* の場合のみ使用できます。

スレッショルド — ピクセルを黒または白と認識するレベルを設定します（1 ビット / ピクセル）。この設定値を小さくすると、イメージがより薄くなり、背景を抑えることができます。この設定値を大きくすると、イメージが濃くなります。また、薄いイメージを取り込みやすくなります。オプションの範囲は、[0] から [255] です。デフォルト値は 90 です。

注：*[変換時の品質 : 最高]* および *[変換時の品質 : 通常]* の場合のみ使用できます。



スレッショルド：50



スレッショルド：127

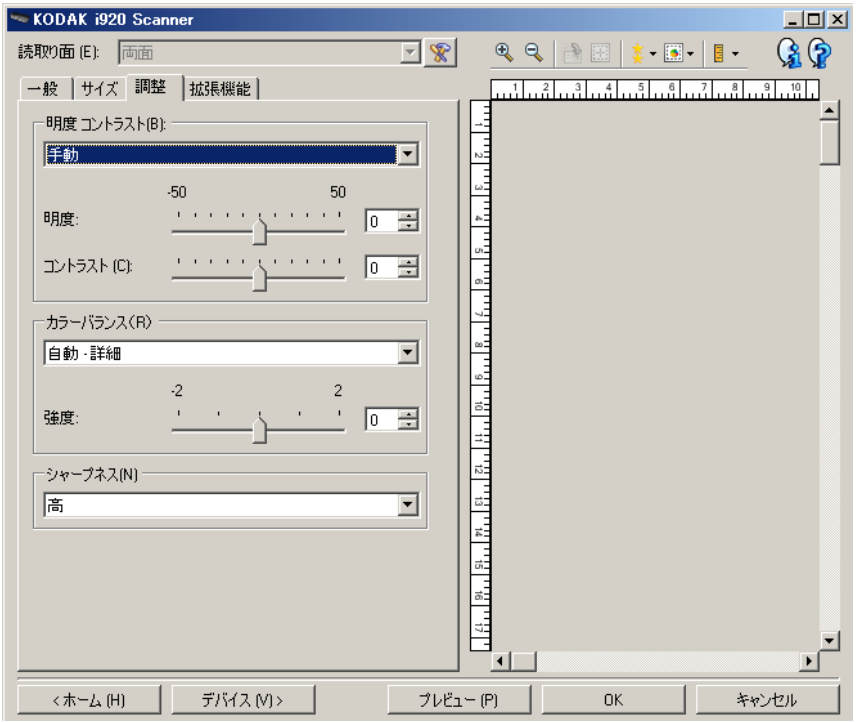
フィルタ

- **ノイズ**
  - **（なし）**：ノイズフィルタを実行しません。
  - **孤立点除去**：白ピクセルで完全に囲まれている単一の黒ピクセルを白へ変換するか、黒ピクセルで完全に囲まれている単一の白ピクセルを黒へ変換することにより、ランダムノイズを減らします。
  - **マジョリティルール**：各ピクセルをその周辺全域のデータに基づき設定します。ピクセルは周辺全域ピクセルの多数が白の場合白になり、黒の場合は黒になります。
- **イメージ**
  - **（なし）**：イメージフィルタを実行しません。
  - **ハーフトーン除去**：ハーフトーンスクリーンを使ったドットマトリックステキストやイメージ（新聞の写真など）の見栄えを良くします。

反転 — 黒ピクセルがイメージ内に保存される方法を選択できます。デフォルトでは、黒ピクセルは黒として、白ピクセルは白として保存されます。黒ピクセルを白として、白ピクセルを黒として保存する場合は、このオプションを有効にします。

[調整] タブ : カラー／グレースケール

[調整] タブで利用できるオプションは、[一般] タブの *[スキャン形式]* の選択項目により異なります。以下のオプションは、*[スキャン形式]* で **[カラー]** または **[グレースケール]** を選択した場合に基づきます。



明度 コントラスト

- **（なし）**：ノイズフィルタを実行しません。
- **手動**：すべてのイメージに適用させる特定の値を設定できます。
  - **明度** — カラー／グレースケールイメージの白レベルを調整します。値の範囲は、**[-50]** から **[50]** です。デフォルト値は 0 です。
  - **コントラスト** — イメージをシャープに、またはソフトにします。値の範囲は、**[-50]** から **[50]** です。デフォルト値は 0 です。

カラーバランス *（グレースケールでは無効です）。*

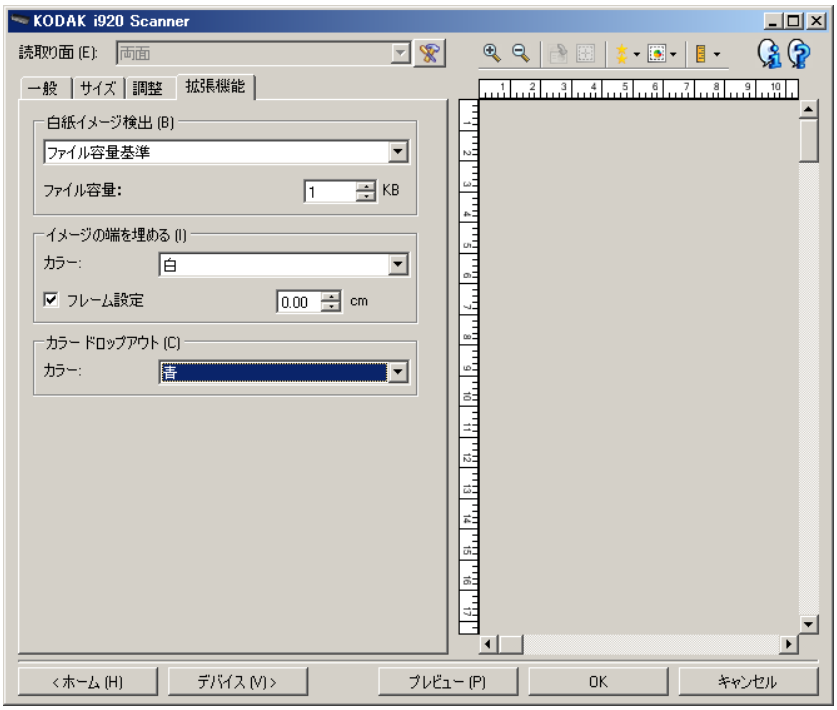
- **（なし）**：オプションを実行しません。
- **自動**：各原稿の白い背景を純白に調整します。このオプションを使用すると、用紙ごとの厚さやブランドの違いによる白の差異を補うことができます。このオプションは写真に対して使用しないことを推奨します。
- **自動 - 詳細自動**：オプションの詳細を設定したい場合に使用します。
  - **強度** — 差異の度合いを調整できます。値を大きくすることで、古くなり黄ばんだ原稿に対応することができます。値の範囲は、[-2] から [2] です。
- **手動**：すべてのイメージに適用させる特定の値を設定できます。
  - **赤 —** カラーイメージ中の赤のレベルを調整します。値の範囲は、**[-50]** から **[50]** です。デフォルト値は 0 です。
  - **緑 —** カラーイメージの緑のレベルを調整します。値の範囲は、**[-50]** から **[50]** です。デフォルト値は 0 です。
  - **青** — カラーイメージの青のレベルを調整します。値の範囲は、**[-50]** から **[50]** です。デフォルト値は 0 です。

シャープネス — イメージ内の境界線のコントラストを増やします。オプションとして**標準、高、強調**が指定できます。

[拡張機能] タブ

[拡張機能] *タブのオプションは*、**[一般] タブの** [スキャン形式] の選択項目により異なります。

注：ほとんどのオプションには、追加設定があります。追加設定は、オプションが選択された場合のみ表示されます。すべての設定が画面に収まらない場合、すべての設定にアクセスできるようにスクロールバーが表示されます。



白紙イメージ検出 — スキャンアプリケーションに白紙のイメージが取り込まれないように設定できます。

- **（なし）**：すべてのイメージがスキャンアプリケーションに送信されます。
- **文字量基準**：イメージ内の原稿内容に基づきイメージが白紙であるかどうか判断されます。
  - **文字量**：スキャナーが白紙であると判断する内容の最大量を設定できます。内容量がこの値以上のイメージは白紙でないと判断されると、スキャンアプリケーションへ送信されます。値の範囲は、[0] から [100] です。
  - ：[文字量基準] はプレビューイメージの内容量が入力されます。一般的な白紙原稿（レターヘッド付きの白紙原稿など）があれば、内容量を設定する際に参考になります（必要に応じてプレビュースキャン、このボタンのクリック、文字量の調整などを実行します）。

注：このオプションはプレビューイメージがある場合のみ使用できます。

- **ファイル容量基準**：（他のすべての設定が適用された後）スキャンアプリケーションに送信するイメージのサイズに基づいて、白紙であるかどうか判断されます。
  - **ファイル容量**：スキャナーが白紙でないと判断するイメージの最小サイズを選択できます。サイズがこの値以下のイメージは白紙と判断され、スキャンアプリケーションへ送信されません。値の範囲は、**1** ～ **1000** KB（1KB は 1024 バイト）です。

イメージの端を埋める — 最終的に出力されるイメージの端の領域を、選択された色で埋めます。

- **[カラー]**：端を埋める色を選択できます。
  - （なし）：オプションを実行しません。
  - 白：イメージの端が白色で埋められます。
  - 黒：イメージの端が黒色で埋められます。
- **フレーム設定**：このオプションをオンにすると、4 辺が等しく埋められます。
- **上**：上端を埋める量を決定します。
- **左／右**：左のオプションは、左端を埋める量を、右のオプションは右端を埋める量を決定します。
- **下**：下端を埋める量を決定します。

注：

- **[上]**、**[左／右]** 、**[下]** の各オプションは、*[フレーム設定]* が有効になっている場合は使用できません。
- **イメージ端埋め**を使用する場合は、大きな値を入力しないよう注意してください。値が大きすぎると、イメージデータが塗りつぶされる場合があります。
- このオプションはプレビューイメージには適用されません。

カラードロップアウト — フォームの背景を除去するために使用します。背景が除去されると入力されたデータのみがイメージとして保存されます（フォームの線とボックスを削除）。白黒イメージにこの設定を施すと、グレースケールのイメージ用の設定にも影響を受けます。

- **カラー**：ドロップアウトする色を選択します。
  - **（なし）**
  - **赤**：**赤色をドロップアウトします。**
  - **緑**：**緑色をドロップアウトします。**
  - **青**：**青色をドロップアウトします。**

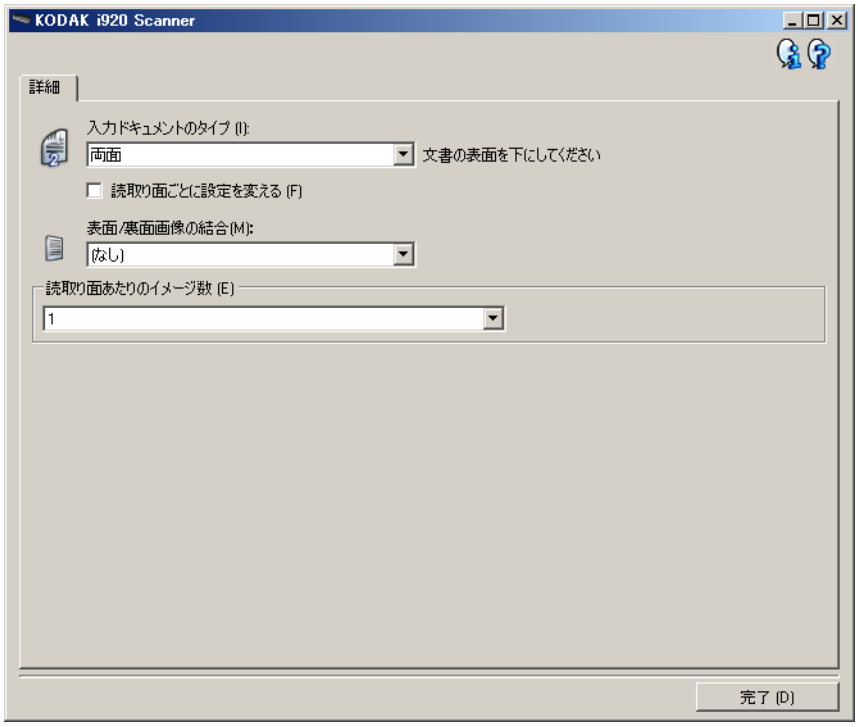
[カラードロップアウト] オプションは、*[スキャン形式]* で **[白黒]** または **[グレースケール]** が選択されている場合にのみ利用できます。

詳細イメージセットアップ

[詳細] タブ

[イメージの詳細設定] アイコンは、イメージ設定ウィンドウの上部にある、*[読取り面]* ドロップダウンボックスの隣にあります。

[詳細イメージセットアップ] アイコンを選択すると、[詳細] タブが表示されます。

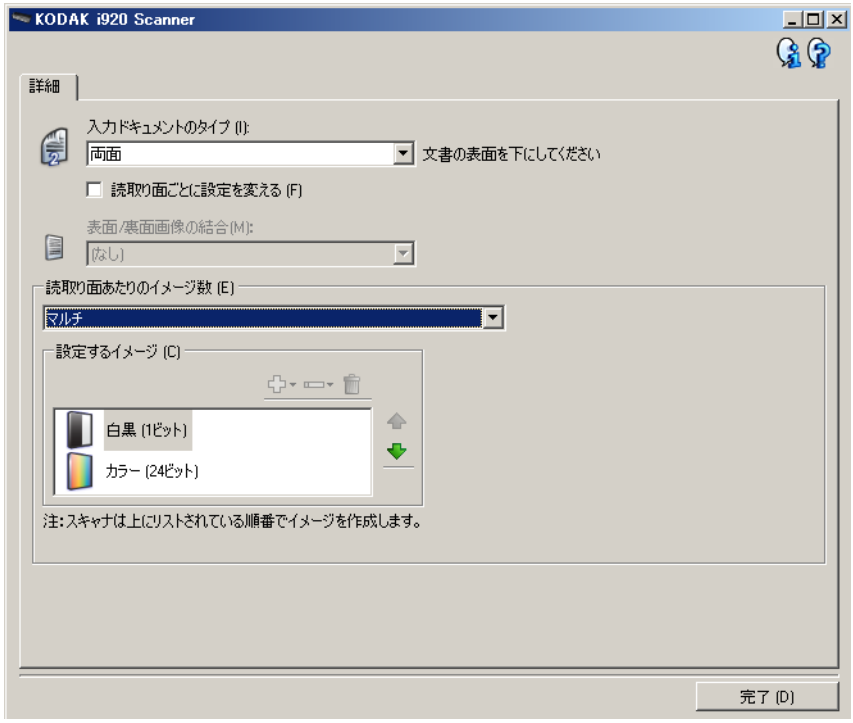


入力ドキュメントのタイプ — 設定する面に応じて、[両面]、[片面 - 表]、または **[片面 - 裏]** を選択します。

読み取り面ごとに設定を変える — デフォルトでは、選択した設定内容が両面のイメージに適用されます。スキャン対象原稿のそれぞれの面に異なるイメージ処理設定を適用する場合に、このオプションを選択します。たとえば表面をカラー、裏面を白黒にしたい場合は、まず **[入力ドキュメントのタイプ]** ドロップダウンリストから *[両面]* オプションを選択し、次に *[読み取り面ごとに設定を変える]* のチェックボックスを選択します。

この操作を行うと、[イメージ設定] ウィンドウにある *[読取り面]* ドロップダウンリストが有効になり、読み取り面ごとに異なる設定を選択することができます。**[読取り面ごとに設定を変える]** を有効にしているため、最初の選択内容はスキャン対象ドキュメントの表面のみ適用されます。

表面に関するオプションを選択し終わったら、[読取り面] *ドロップダウンリストから裏面を選択し、裏面に適用するオプションを設定していきます。*

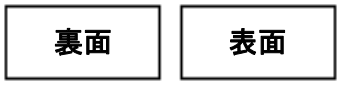


表面 / 裏面画像の結合 — 両面の各イメージを 1 つにしたイメージを作成する場合に使用します。このオプションを有効にすると、原稿の表面と裏面を 1 つのイメージに結合します。オプションは以下のとおりです。

表面を上：表面のイメージが裏面のイメージの上に配置されます。

表面を下：裏面のイメージが表面のイメージの上に配置されます。

表面を左：表面のイメージが裏面のイメージの左に配置されます。



表面を右：裏面のイメージが表面のイメージの左に配置されます。

注：このオプションが使用できるのは、*[入力ドキュメントのタイプ]* が **[両面]** に設定されており、*[読み取り面ごとに設定を変更]* が選択されておらず、*[読取り面あたりのイメージ数]* が **[1]** に設定されており、ドキュメントフィーダからスキャンが実行された場合に限られます。

読取り面あたりのイメージ数 — イメージ処理する選択項目に基づいて、読み取り面あたりに作成するイメージの数を示します。

- **1**：1 つのイメージが作成されます。
- **マルチ**：複数イメージが作成されます。

設定するイメージ — 設定するイメージを示します。

注：**[読取り面あたりのイメージ数]** オプションから [1] 以外の項目を選択している場合のみ、このオプションを使用できます。詳細オプションの設定方法は、次のセクションを参照してください。

- *例 1：原稿の各面に対して複数イメージを作成*
- *例 2：原稿の両面にそれぞれ異なる設定を使用*

スキャナからスキャンアプリケーションにイメージを送る順番は、上矢印と下矢印で選択します。

[ツールバー] ボタン

追加：設定リストの一番下にイメージを追加します。

変更：現在選択されているイメージの種類を変更します。

削除：選択したイメージの種類を削除します。

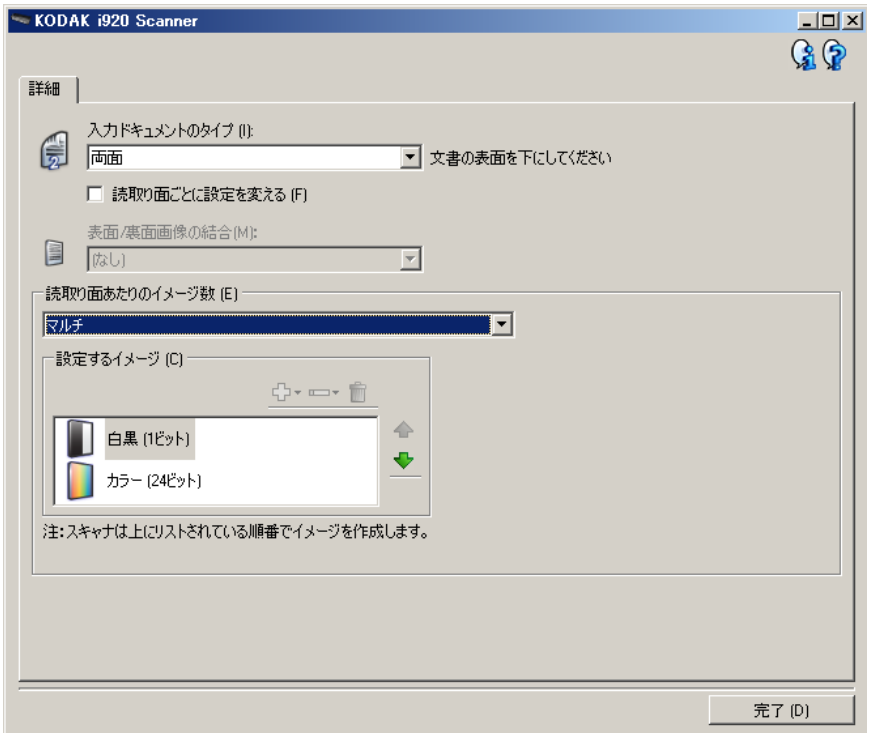
完了 — [イメージ設定] ウィンドウに戻ります。

例 1：原稿の各面に対して複数イメージを作成

この例では、両面に情報が印刷されている原稿のスキャンを想定し、原稿の各面に対してカラーと白黒イメージの両方を出力します。

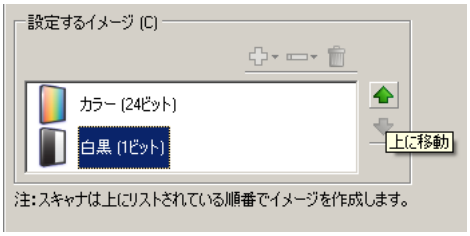
1. スキャナーメインウィンドウから、目的のイメージ出力にもっとも近い内容の **[設定のショートカット]** を選択します。
2. **[設定]** を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。
3. イメージ設定ウィンドウの **[詳細イメージセットアップ]** アイコンを選択すると、[詳細] タブが表示されます。
4. **[入力ドキュメントのタイプ]**：**両面を選択します。**
5. **[読取り面あたりのイメージ数]**：**マルチ**を選択します。

   注： [詳細] タブに *[設定するイメージ]* が表示され、[カラー]、[白黒] イメージ項目があります。



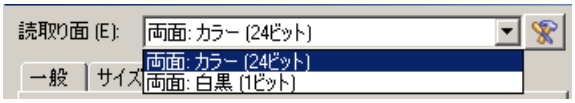
6. カラーイメージではなくグレースケールイメージを取得する場合は、次の設定をします。
   - *[カラー（24 ビット）]* を選択します。
   - **[変更]** を選択してオプションのリストを表示します。
   - **[グレースケール]** を選択します。

7. デフォルトでは、最初にリストされたイメージ（この例では白黒）がスキャンアプリケーションに送信され、次に 2 番目にリストされたイメージ（この例ではカラー／グレースケール）が送信されます。カラー／グレースケールイメージを先に生成して送信したい場合、次の手順に従います。
   - *[カラー（24 ビット）]* を選択します。
   - **[上に移動]** を選択して、カラー／グレースケールイメージを先にリストの上にセットします。



8. **[完了]** をクリックすると、イメージ設定ウィンドウに戻ります。

   注： *[読取り面]* オプションで、**[両面：カラー（24 ビット）]**、と **[両面：白黒（1 ビット）]** が選択できます。



9. **[読取り面：] で [両面：カラー（24 ビット）]** を選択します。

   注： イメージ設定ウィンドウのその他のタブと、カラーイメージ設定の設定項目を調整します。

10. **[読取り面：] で [両面：白黒（1 ビット）]** を選択します。

    注： イメージ設定ウィンドウのその他のタブについても、白黒イメージ設定の設定項目を調整します。

11. 設定が完了したら、**[ホーム]** を選択してスキャナーメインウィンドウに戻り、**[保存]** を選択してショートカットへの設定内容を保存します。

例 2：書類の両面にそれぞれ異なる設定を使用

この例では、表面はカラー、裏面は白黒でスキャンする設定をします。

1. [詳細] タブを開いていない場合、次の手順で設定します。
   - スキャナーメインウィンドウから、目的のイメージ出力にもっとも近い内容の **[設定のショートカット]** を選択します。
   - **[設定]** を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。
   - イメージ設定ウィンドウの **[詳細イメージセットアップ]** アイコンを選択すると、[詳細] タブが表示されます。
2. **[入力ドキュメントのタイプ]**：**から [両面]** を選択します。
3. **[読み取り面ごとに設定を変更]** オプションを選択します。
4. **[読取り面あたりのイメージ数]**：**から [1] を選択します。**

5. **[完了]** をクリックすると、イメージ設定ウィンドウに戻ります。

   注：*[読取り面]* オプションで、**[表]** と **[裏]** の 2 つの項目が表示されます。

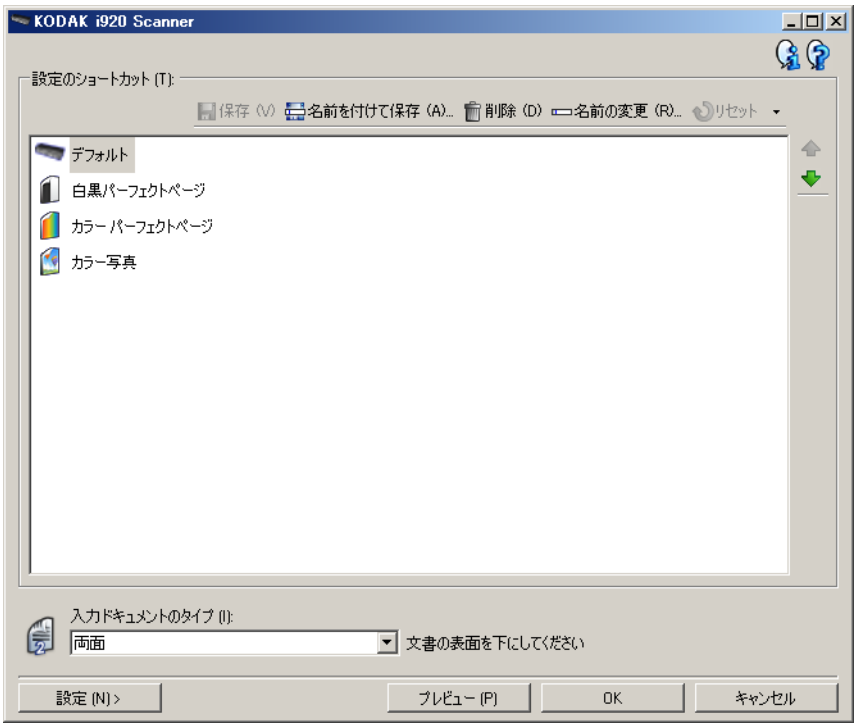
6. **[読取り面]**：**で [表]** を選択します。
7. [一般] タブの **[スキャン形式]** オプションで、*[カラー（24 ビット）]* を選択します。

   注：イメージ設定ウィンドウのその他のタブについても、裏面の設定項目を調整します。
8. **[読取り面]**：**で [裏]** を選択します。
9. [一般] タブの **[スキャン形式]** オプションで、*[白黒（1 bit）]* を選択します。

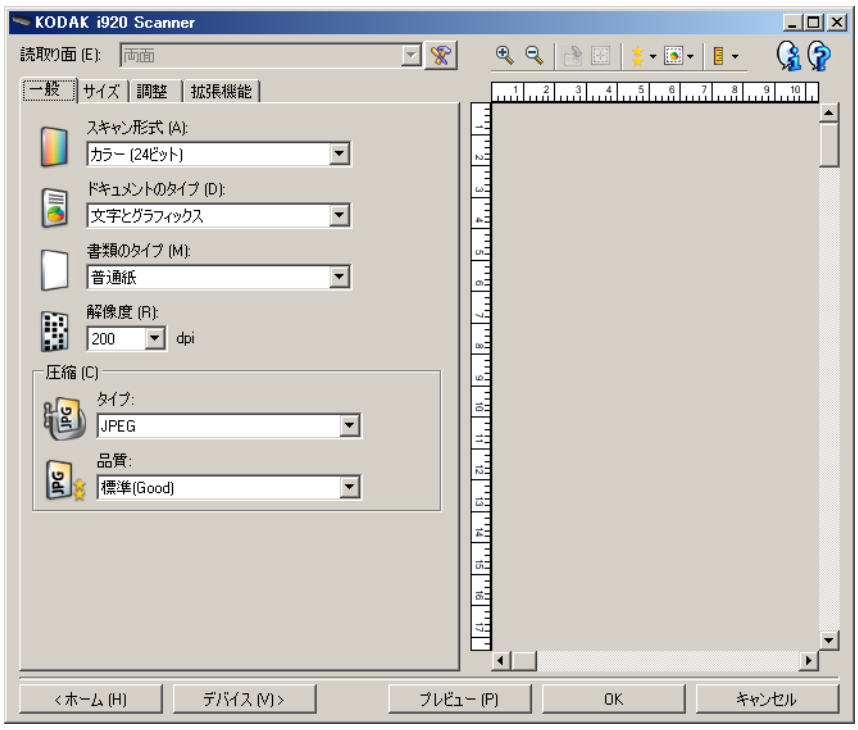
   注：イメージ設定ウィンドウのその他のタブについても、裏面の設定項目を調整します。
10. 設定が完了したら、**[ホーム]** を選択してスキャナーメインウィンドウに戻り、**[保存]** を選択してショートカットへ設定内容を保存します。

新しい設定のショートカットの作成

1. スキャナーメインウィンドウのリストから、設定のショートカットを選択します。目的のイメージ出力に最適なショートカットを選択します。



2. *[入力ドキュメントのタイプ]* フィールドから、原稿の表面、裏面、または両面のいずれかを選択します。
3. スキャナーメインウィンドウで **[設定]** を選択します。イメージ設定ウィンドウの [一般] タブが表示されます。



4. [一般] タブで適切なオプションを選択します。

   注：必要な場合は、他のタブで各設定を確認し、変更します。

5. スキャナーの入力トレイに原稿を 1 枚セットします。
6. どのようにイメージがスキャンされるかを確認するには、**[プレビュー]** をクリックします。

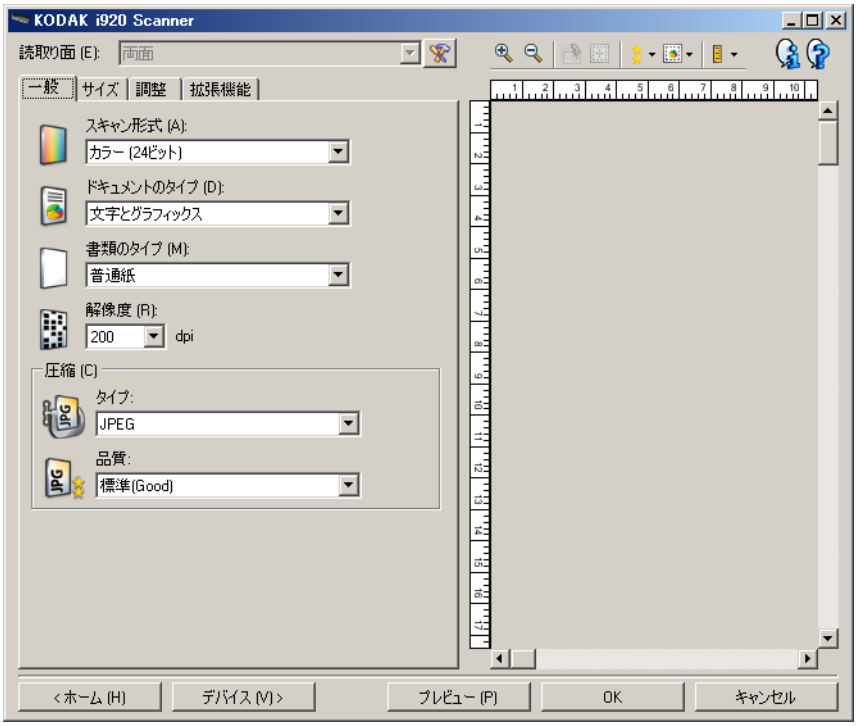
   注：

   - 表示されたイメージの品質に満足できない場合は、別のショートカットを利用して設定を変更するか、イメージ設定ウィンドウの他のタブで設定内容をさらに調整します。
   - 対話的に調整を行う場合は、最高品質のプレビューでイメージを表示することを推奨します。

7. イメージ設定ウィンドウの **[デバイス]** を選択して目的のデバイス設定を定義し、デバイス設定ウィンドウを表示します。
8. 各タブで、スキャナーに実行させる適切なオプションを選択します。
9. **[ホーム]** をクリックしてスキャナーメインウィンドウに戻ります。
10. **[名前を付けて保存]** を選択して、名前を付けて保存ウィンドウを表示します。
11. 判別しやすい設定の新しいショートカット名を入力して、**[保存]** をクリックします。

イメージ設定の変更

1. スキャナーメインウィンドウから、目的のイメージ出力にもっとも近い内容の [設定のショートカット] を選択します。
2. スキャナーメインウィンドウから、*[入力ドキュメントのタイプ]* を選択します。
3. **[設定]** を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。

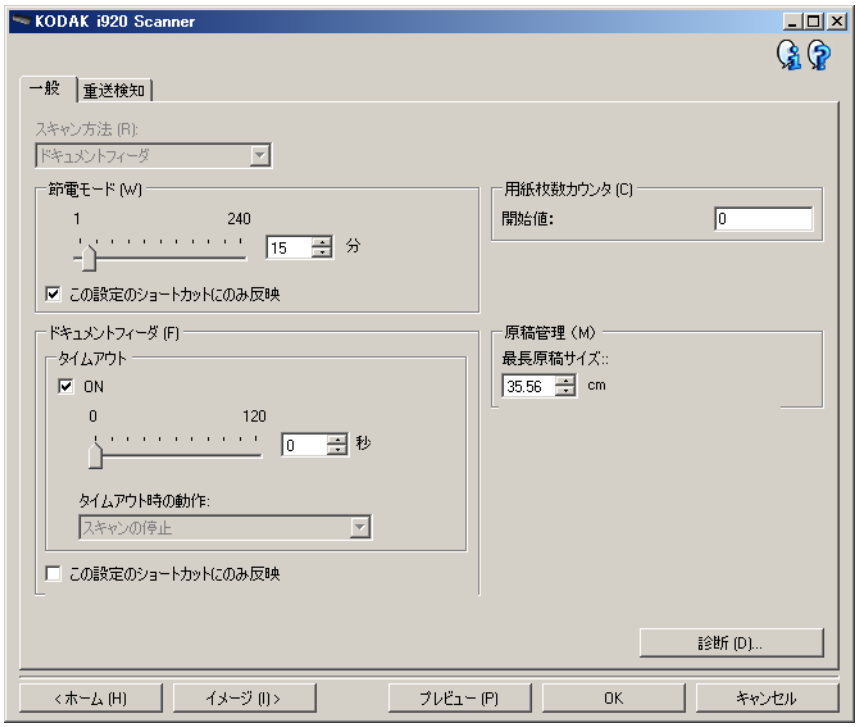


4. 設定内容を変更する前に、イメージ設定ウィンドウの各タブをクリックして、どのようなオプションや機能があるかを確認します。
5. スキャン時に実行する各オプションを適切に選択します。
6. オプションの結果を見たい場合は：
   - スキャナーの入力トレイに原稿を 1 枚セットします。
   - **[プレビュー]** を選択して、プレビュースキャンを実行します。

   注：
   - 表示されたイメージの品質に満足できない場合は、別のショートカットを利用して設定を変更するか、もう一度イメージ設定ウィンドウの各タブを確認しながら現在のショートカットを使用して続行します。この手順は必要に応じて繰り返します。
   - 対話的に調整を行う場合は、最高品質のプレビューでイメージを表示します。
7. 設定が完了したら、**[ホーム]** を選択してスキャナーメインウィンドウに戻り、**[保存]** を選択してショートカットへ設定内容を保存します。

デバイス設定ウィンドウ

スキャナー固有のすべてのオプションや診断機能を、このウィンドウの利用可能なタブを使用して設定できます。デバイス設定に使用される値は、選択された *[設定のショートカット]* に保存されます。デバイス設定ウィンドウには [一般] と [重送検知] タブがあります。



ホーム — スキャナーメインウィンドウに戻ります。

イメージ — [イメージ設定] ウィンドウを表示します。

プレビュー — スキャンを開始して、イメージ設定ウィンドウのプレビューウィンドウにスキャンされたイメージが表示されます。表示されたイメージは、現在のショートカット設定に基づいたサンプルです。

OK ／スキャン — 選択すると、保存されていない変更を保存するようメッセージが表示されます。

注：このボタンが **[OK]** の場合、保存されていない変更は現在のスキャンセッションの影響を受けます。

キャンセル — 変更内容を保存せずに、スキャナーメインウィンドウを閉じます。

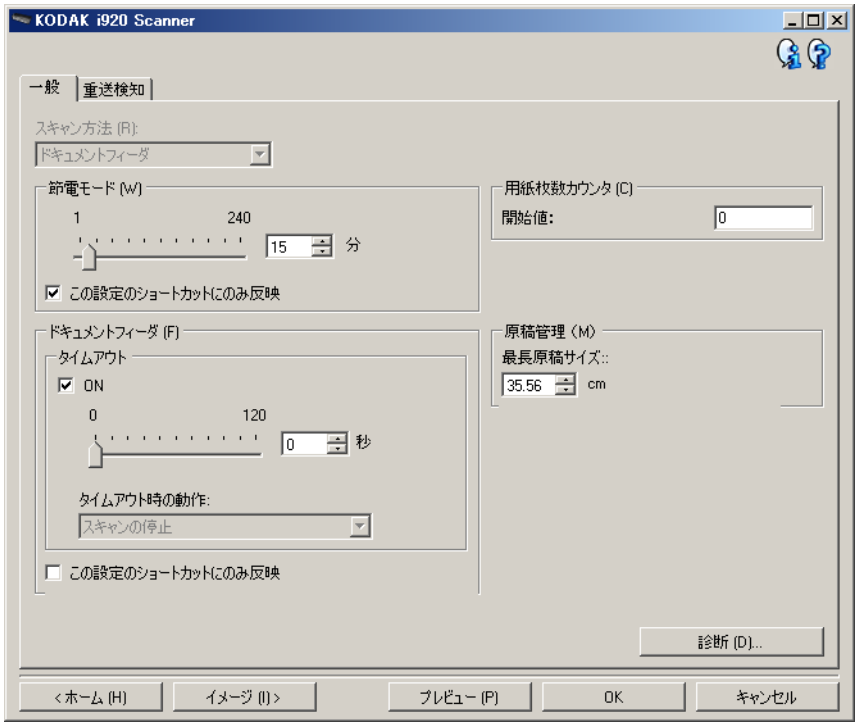
情報アイコン

バージョン情報：スキャナーのバージョンと著作権情報を表示します。

ヘルプ：現在表示されているウィンドウのヘルプ情報を表示します。

デバイス - [一般] タブ

[一般] タブを使用して、スキャナー固有のオプションを設定したり、スキャナー診断にアクセスできます。



スキャン方法

- **ドキュメントフィーダ**：スキャナーは入力トレイから原稿をスキャンします。

節電モード — スキャナーが操作されていないときに節電モードに移行するまでの時間を設定できます。

注：省電力設定は、すべての [設定のショートカット] で共有されます。**[この設定のショートカットにのみ反映]** オプションを有効にしない限り、変更は他のショートカットにも反映されます。

ドキュメントフィーダ

- **タイムアウト**：最後の原稿がフィーダーに入り、タイムアウトになるまでのスキャナーの待機時間を選択できます。

  タイムアウト時のアクション：ドキュメントフィーダのタイムアウト時にな実行するアクションを指定できます。

  - **スキャンの停止**：スキャンを停止し、スキャンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。

  注：*ドキュメントフィーダ*設定は、すべての [設定のショートカット] で共有されます。**[この設定のショートカットにのみ保存]** オプションをオンにしない限り、変更は他のショートカットに反映されます。

用紙枚数カウンタ — スキャナーに入る次の原稿に割り当てられる番号を入力します。スキャナーによってカウントアップされ、イメージヘッダに送られます。

原稿管理

最長原稿サイズ — 原稿セット内で最長原稿の長さを設定します。

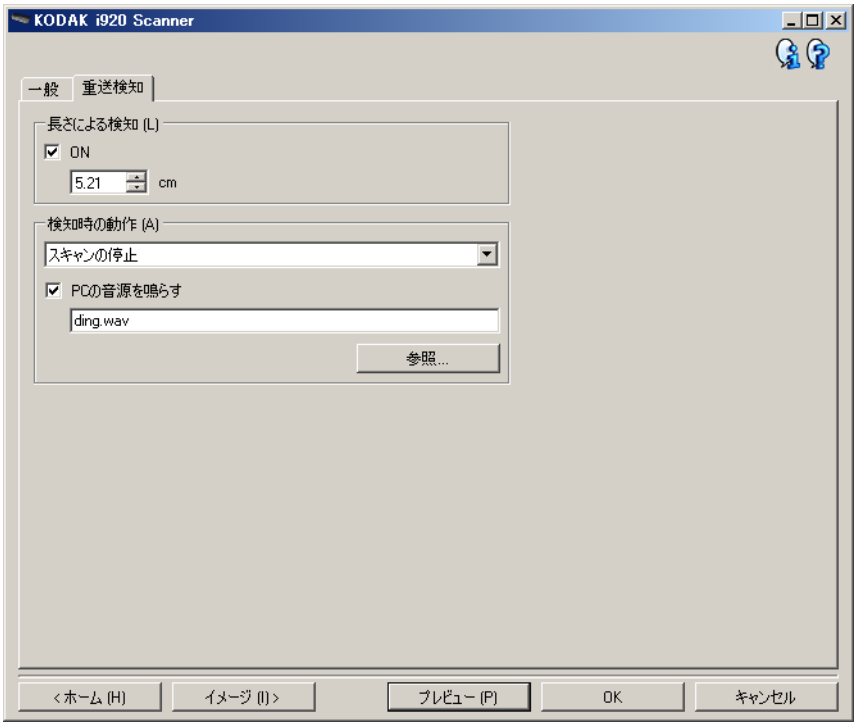
注：

- この値を変更すると、次の設定の最大値に影響します。*イメージサイズ - アウトライン*、*重送 - 長さ検知*
- *[スキャン形式]* と *[解像度]* によっては、原稿の長さが制限される場合があります。柔軟にアプリケーションに対応できるように、長さを超えた原稿が確認されるまでエラーを生成しません。
- 長尺原稿の場合は、スキャナーの処理能力が低下する場合があります。

診断 — [診断] タブを表示します。

デバイス - [重送検知] タブ

重送検知機能は、原稿が重なった状態で給紙された時点で重送を検知します。重送はホチキスで綴じられた原稿、粘や静電気を帯びている原稿が原因で発生します。



長さによる検知 — ジョブ設定で原稿の最大の長さを設定できます。スキャナーがこの値より長い原稿を探知した場合、重送が発生したと判断します。このオプションを**無効**にするか、長さを設定できます。

検知時の動作 — 重送検知時のスキャナーの動作を選択します。オプションに関係なく、状態はスキャナーのログに記録されます。

- **スキャンの停止**：スキャンを停止し、スキャンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。搬送路に原稿が残っていないことを確認後、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。
- **スキャン停止 - イメージ生成**：スキャンを停止し、スキャンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。重送原稿のイメージが生成されます。搬送路に原稿が残っていないことを確認後、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。

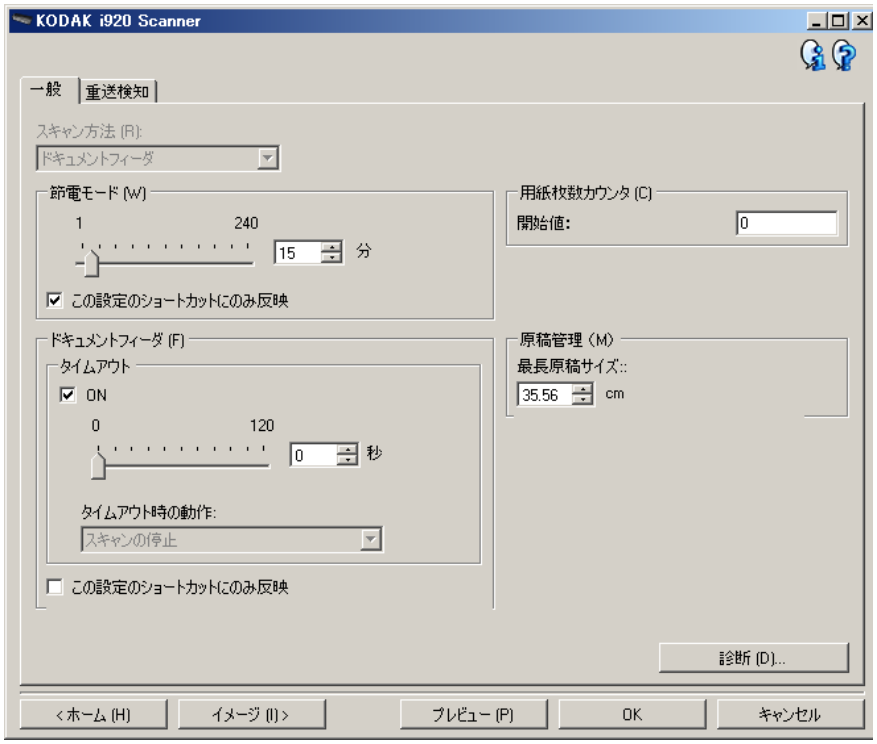
- **スキャンの停止 - 用紙を搬送部に残す**：スキャンを直ちに停止し（搬送路に残ります）、スキャンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。搬送路から原稿を取り除き、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。
- **スキャンの続行**：スキャナーはスキャンを継続します。

PC の音源を鳴らす — 重送検知時に PC から音を鳴らす場合、このオプションを選択します。**[参照]** ボタンをクリックして、再生する .wav ファイルを選択できます。

注：PC の音源は、スキャナーの重送検出時と同時に鳴らない場合があります。

デバイス設定の変更

1. スキャナーメインウィンドウから、目的のイメージ出力にもっとも近い内容の [設定のショートカット] を選択します。
2. **[設定]** を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。
3. **[デバイス]** を選択すると、デバイス設定ウィンドウが表示されます。



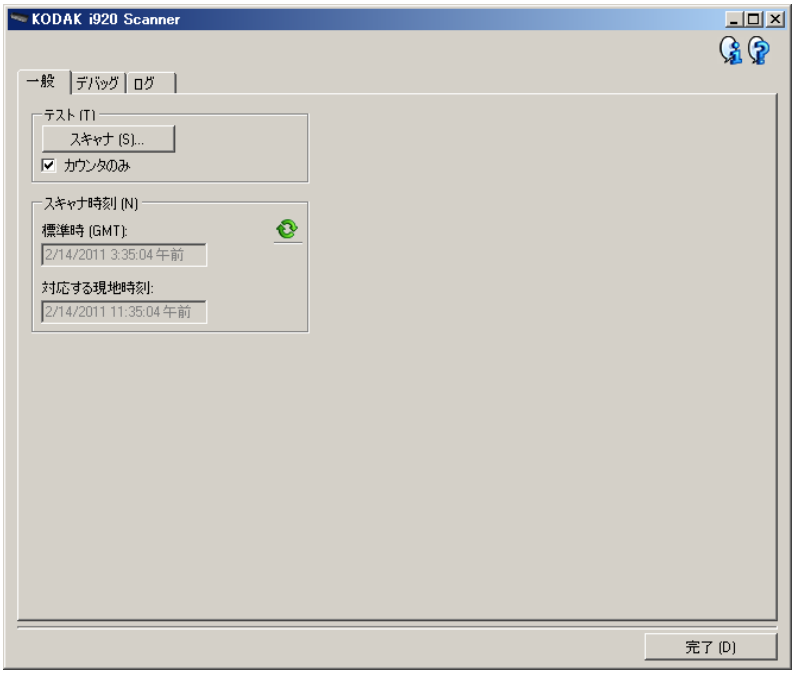
4. 設定内容を変更する前に、デバイス設定ウィンドウの各タブをクリックして、どのようなオプションや機能があるかを確認します。
5. スキャン時に実行する各オプションを適切に選択します。
6. 設定が完了したら、**[ホーム]** を選択してスキャナーメインウィンドウに戻り、**[保存]** を選択してショートカットへの設定内容を保存します。

[診断] ウィンドウ

このウィンドウではスキャナーの診断機能が使用できます [診断] ウィンドウには [一般]、[デバッグ]、[ログ] のタブがあります。[診断] ウィンドウは、デバイス設定ウィンドウの [一般] タブにある [診断] ボタンからアクセスできます。

診断 - [一般] タブ

[一般] タブでは、スキャナーのテストや、スキャナー時刻の確認ができます。



テスト

- **スキャナー** — 電源投入時のセルフテストと似ていますが、より詳細なテストを行います。このボタンをクリックすると、一連のデバイスチェックが行われ、スキャナーのハードウェアがすべて正常に動作しているかどうか確認します。
- **カウントオンリー** — スキャンアプリケーションにイメージを送信せずにスキャナーに入る原稿の枚数を数えます。このテストは、オプション有効時のスキャンセッション中に実行します。

  注：スキャンアプリケーションがスキャナーの接続から切れると、テストは自動的に終了します。

スキャナー時刻

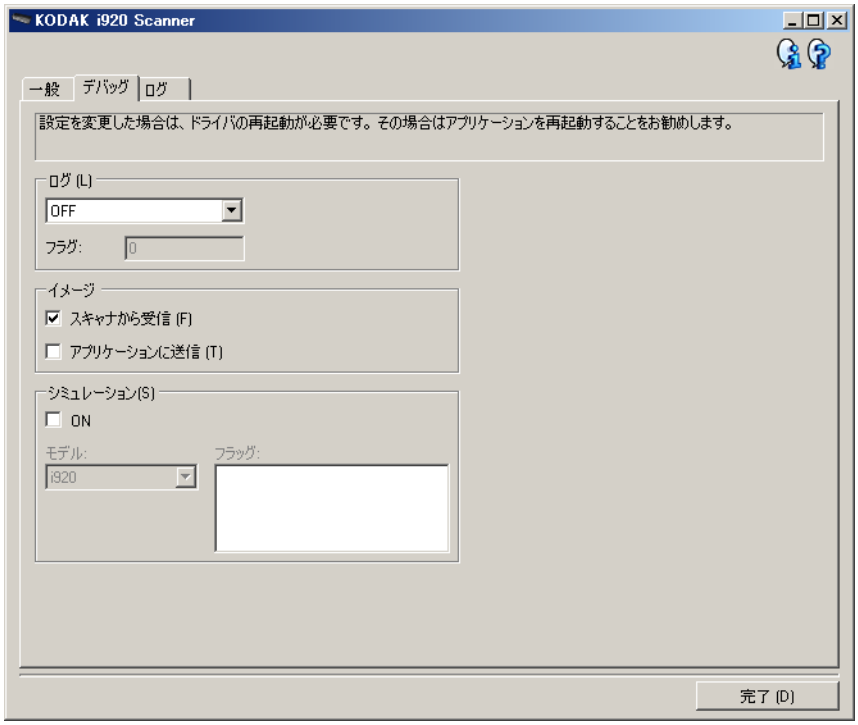
- **標準時 (GMT)**：グリニッジ標準時 (GMT) を表示します。
- **対応する現地時刻**：スキャナーのグリニッジ標準時間をコンピュータの現地時間帯で表示します。
- **更新アイコン** ：スキャナーの現在の時刻を再表示します。

診断 - [デバッグ] タブ

[デバッグ] タブは、スキャナーを使用中に発生した問題を診断するのに役立つオプションが使用できます。このタブは、コダックのサービス担当から指示がある場合のみ使用してください。

注：

- このタブにあるすべてのオプションは、現在選択されている設定のショートカットだけでなく、すべての設定のショートカットに適用されます。
- このタブで行った変更を有効にするには、アプリケーションを再起動する必要があります 。



ログ — スキャナーとスキャンアプリケーションの間で行われた通信を保存します。オプションは、**[OFF]**、**[ON]**、**[カスタム]** が用意されています。

イメージ

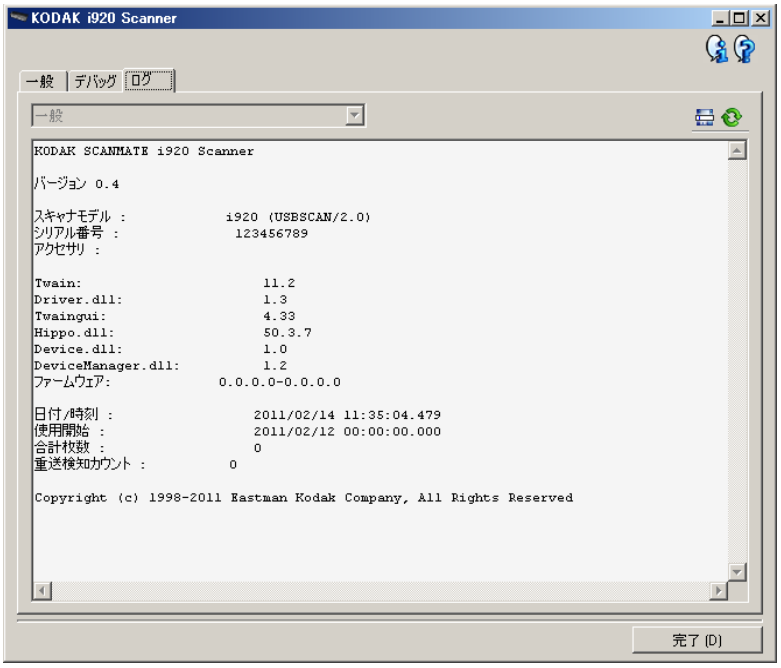
- **スキャナーから受信** — スキャナーから PC に送信されたイメージを保存します。
- **アプリケーションに送信** — スキャナーからスキャンアプリケーションに送信されたイメージを保存します。

シミュレーション — 実際にスキャナーを使用しないで TWAIN ドライバ／データソースを使用できます。

- **モデル**：特定のモデルを選択してシミュレーションを実行します。
- **フラグ**：TWAIN ドライバ／データソースにサポートされている場合は、シミュレーションスキャナーにインストールされているアクセサリのリストが利用できます。

診断 - [ログ] タブ

[ログ] タブでスキャナー情報を確認できます。



ログ：**一般** — スキャナーのバージョン情報、シリアル番号、インストール済みアクセサリ、メーターなどが表示されます。

[ツールバー] ボタン

名前を付けて保存 — すべてのログを保存します。このログは、コダックサポート担当が閲覧します。選択すると [名前を付けて保存] ウィンドウが表示されます。

- **説明**：ログを保存する問題／理由の簡単な説明を入力します。
- **フォルダ**：ログの保存先です。
- **参照**：OS の [ファイルを開く] ウィンドウが表示され、使用するフォルダを検索できます。
- **デバッグイメージを含む**：生成されたデバッグイメージをログと共に保存します。このオプションはデフォルトで有効になっています。サポート担当者から指示された場合のみ無効にしてください。
- **保存**：拡張子 .eklog でログファイルを保存します。

更新：現在表示されているログを更新します。

Kodak

コダック株式会社
東京都千代田区神田駿河台 2-9
KDX 御茶ノ水ビル
Rochester, NY 14650 U.S.A.
© Kodak, 2011. All rights reserved.
TM: Kodak, ScanMate